

第 14 回

がん患者大集会プログラム

希望の朝焼け

of the patients, by the patients, for the patients
変えよう日本のがん医療、手をつなごう患者と家族たち

「今、患者力に求められるもの」

【開催日時】 2018年11月25日(日) 開場:9時半 開始:10時 終了:16時(予定)

【開催場所】 東京医科歯科大学 M&D タワー2F 鈴木章夫記念講堂

(東京都文京区湯島 1-5-45)

①各地がん患者サロン等のサテライト会場へ参加

②ソーシャルネットワーク(YouTube Live)を利用した個人視聴(スマートフォン視聴可)

【メインテーマ】 「今、患者力に求められるもの」

【主催】 NPO 法人がん患者団体支援機構・第 14 回がん患者大集会実行委員会
東京医科歯科大学医学部附属病院 腫瘍センター

【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

【後援】 厚生労働省, 文部科学省, 東京都, 国立研究開発法人国立がん研究センター,
(公社)日本医師会, (公社)日本看護協会, (公社)日本薬剤師会, 日本癌学会, (一社)日本癌治療学会,
(一社)日本臨床衛生検査技師会, (一社)日本血液学会, (一社)日本サイコオンコロジー学会, 日本製薬工業協会,
(公財)日本対がん協会, (一社)日本医療機器産業連合会, 日本死の臨床研究会, NPO 法人日本緩和医療学会,
NPO 法人日本ホスピス在宅ケア研究会, NPO法人婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG), NPO 法人楽患ねっと,
NPO 法人地域チーム医療推進協議会, (公社)日本臨床腫瘍学会, (公財)正力厚生会, (福)NHK 厚生文化事業団,
(公社)日本臨床細胞学会細胞検査士会, 読売新聞社, 朝日新聞社, 日本経済新聞社, 中国新聞社, 毎日新聞社,
(一社)共同通信社, 産経新聞社,

プログラム

第14 回がん患者大集会 プログラム 司会 :木蘭(ムーラン)氏・山本ゆき氏	
10:00 より	会場のエントランスにてがん患者団体等の展示ブース
10:00-10:10	開会式挨拶 浜中和子 (NPO 法人がん患者団体支援機構 理事長) 厚生労働大臣 根本匠氏(代読 厚生労働省 がん・疾病対策課 ○○○○氏) 日本医師会会長 横倉義武氏(代読 常任理事 羽鳥 裕氏)
10:10-12:00	患者会活動発表 ①アイビー千葉 (乳がん) 齋藤とし子氏 ②頭頸部がん患者と家族の会『Nicotto<ニコット>』 (頭頸部がん) 清水敏明氏 ③秋田県肺がんネットワーク 「あけびの会」 (全がん) 藤井婦美子氏 ④がん患者グループゆずりは (全がん) 宮本直治氏 ⑤胸腺腫・胸腺がん患者会 ふたつば (希少がん) 山本ゆき氏 ⑥1,3,5の会 (全がん) 三木祥男氏 ⑦岩手ホスピスの会 (全がん) 川守田裕司氏
12:50-13:00	皆で踊ろう～「のの字の歌」乳がんリハビリ&自己検診 体操!
13:00-14:00	講演 「私とがんとの関わり」 垣添忠生先生(日本対がん協会 会長) 講演 「がん医療における患者力とは」 坂下千瑞子先生(東京医科歯科大学医学部附属病院 血液内科特任助教)
14:00-14:15	休憩
14:15-15:45	参加型シンポジウム:「皆で語ろう!患者力!」 コーディネーター:澤祥幸先生(岐阜市民病院 がん診療局長) 垣添忠生先生、坂下千瑞子先生、長谷川一男氏(NPO 法人肺がん患者会ワンステップ代表) 三宅智先生(東京医科歯科大学医学部附属病院腫瘍センター長)
15:45-16:00	閉会式 アピール文提出 挨拶 ○○○○氏 (厚生労働省 がん・疾病対策課) 羽鳥 裕氏 (日本医師会 常任理事) 山田陽子 (NPO 法人がん患者団体支援機構 副理事長・事務局長)

主催・共催・協賛・寄附・協力・制作協力

主催:



特定非営利活動法人 **がん患者団体支援機構**
第14 回がん患者大集会実行委員会

東京医科歯科大学医学部附属病院 腫瘍センター



意味
人任せではなく、がん患者が自身のために「声を上げる」イメージを力強い片腕で表現。そしてもう片方の手は、みんなで協力し合う、つながりあう連帯感をアピールし、全体的にハートのモチーフで心の交流や人の温もりを演出しました。青と赤のツートンカラーは、男性と女性、患者と医師、患者と家族などの相互する関係、さらに静脈と動脈をイメージしています。

共催: 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

寄附: 新尾道薬局、医療法人浜中皮ふ科クリニック、その他個人

協賛: 大鵬薬品工業株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、日本イーライリリー株式会社、サノフィ・ジャパングループ、エーザイ株式会社、株式会社オズ・インターナショナル、中外製薬株式会社 (10月30日現在)

協力: 日本細胞診断学推進協会 細胞検査士会、一般社団法人 MDRT 日本会

制作協力(インターネット放送): チームリライフ

講演者: 垣添忠生(かきぞえ ただお)先生



公益財団法人日本対がん協会 会長
1941年、大阪で生まれ。
1967年東京大学医学部医学科卒業。泌尿器科を専攻し、1975年より国立がんセンター泌尿器科医員。
1992年中央病院長。
2002年国立がんセンター総長。

2007年定年退職し、現在は公益財団法人日本対がん協会会長を務める。

高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、瑞宝重光章などを受賞。

著書:「妻を看取る日」(新潮社)、「悲しみの中にあるあなたへの処方箋」(新潮社)、「巡礼日記-亡き妻と歩いた 600キロ」(中央公論新社)など。

シンポジスト: 長谷川一男(はせがわ かずお)氏



NPO 法人肺がん患者の会ワンステップ代表
肺がん。ステージ4。2010年に発病し、現在9年目。
ワンステップが大切にしていることは「仲間を作る」と「知って考える。」
2ヶ月に1回のペースでおしゃべり会開催。HPとブログにて、様々なテーマで情報

発信している。

全国 11 の肺がん患者会が集まった「日本肺がん患者連絡会」所属。理事長。

日本肺癌学会と連名で要望書を厚生労働省に提出するなどの活動も積極的に行う。

2016年4月、NHKETV 特集でその闘病生活が放送された。同年12月世界肺癌学会からパシエントアドボカシーアワード。現在日本肺癌学会ガイドライン外部委員。

コーディネーター: 澤祥幸(さわ としゆき)先生



岐阜市民病院 がん診療局長
1984年 岐阜大学医学部卒業
1987年 大阪府立はびきの病院レジデント
1993年 岐阜市民病院呼吸器科医長兼診療科長
2006年 日本初のがん薬物療法専門医
2011年 岐阜市民病院診療局長(がんセンター長)・岐阜市参事

2002年より、国際肺癌連盟(global lung cancer coalition)ボード、2014年より世界肺癌学会アドボカシー委員として、国際的な肺癌患者支援活動に参画中。

日本肺癌学会肺癌医療向上委員会として学会を挙げてアドボカシー活動を企画・運営。

講演者: 坂下千瑞子(さかした ちずこ)先生



東京医科歯科大学医学部附属病院
血液内科特任助教
1992年大分医科大学を卒業後、東京医科歯科大学第1内科に入局
1995年血液悪性腫瘍の臨床・研究に従事
2004年アメリカペンシルバニア大学血液腫瘍内科にて研究に従事

2005年胸椎腫瘍の為帰国。腫瘍脊椎骨全摘術を受ける。その後腰椎の再発を認め、重粒子線療法と化学療法を受ける。2008年「ルー・フォー・ライフ・ジャパン大分実行委員会」を設立。2011年東京医科歯科大学医歯学融合教育支援センター勤務にて医学教育に従事。

2013年東京医科歯科大学血液内科に勤務。

日本対がん協会評議員就任。

2016年「ルー・フォー・ライフ・ジャパン御茶ノ水実行委員会」設立。

2018年厚生労働省がん対策推進協議会の委員に就任。

シンポジスト: 三宅智(みやけ さとし)先生



東京医科歯科大学 臨床腫瘍学分野・教授
医学部附属病院 腫瘍センター長
1987年 東京医科歯科大学医学部卒業
1987年 同 第1外科学教室入局
1994年 友愛記念病院 外科勤務
1996年 Harvard Medical School, Dana-Farber Cancer Institute 留学

1999年 埼玉県立がんセンター研究所 主任(分子疫学)

2001年 東京医科歯科大学 分子腫瘍医学分野講師

2003年 東北大学医学研究科 発生分化解析分野講師

2005年 友愛記念病院 緩和ケア・化学療法科

2007年 友愛記念病院 緩和ケア・化学療法科部長

2010年 栃木県立がんセンター 緩和ケア病棟医長

2012年 現職

司会: 木蘭(ムラン)氏



NPO 法人がん患者団体支援機構 理事
19才でビクターからデビュー、歌手&DJ活動。「鼻中隔がん」で嗅覚が失くなり顔の真ん中が空洞になってから22年。チームリライフ代表。「リライフバンド」と歌手活動。「CanpsStation」「リライフ談話室」のパーソナリティー。シンガーソングライター。活動はYoutube 配信しています。

司会: 山本ゆき(やまもと ゆき)氏



NPO 法人がん患者団体支援機構 理事
秋田県在住。NPO 法人がん患者団体支援機構には第8回の大集会から参加。2016年秋田市で開催した第12回がん患者大集会では実行委員長として、地方からの患者の声を拾い上げ、地域間格差の解消を訴える。夫を胸腺がんで亡くし、希少がんの取り組みに力を入れ、2015年10月に悲願の胸腺腫瘍の患者会「ふたつば」の発足を実現した。